

## 令和 5 年度 自己評価

### 1. 経営方針

幼稚園の 3 年間は人格形成の基礎を培う大切な時期である。各学年 1 クラスの落ち着いた環境の中で心を躍らせ、好奇心旺盛にチャレンジし、自分の思いや考えをのびのびと表現できる子どもの育成に努める。そのために、以下の 3 点を経営方針とする。

- ① 子どもを真ん中に置いた保育
- ② 白藤学園の強みを生かした園づくり
- ③ 健康で働きやすい職場づくり

### 2. 本園の教育目標

本園はこれまで「あしたがまちどおしくなる幼稚園」を目標に、子どもの心に寄り添い、豊かな感性と伸び伸びと表現する力を引き出し、意欲や主体性を高める保育の実践に努めてきた。その中で、昨年度白藤学園が幼稚園、こども園、保育園の 3 園を有する向け、改めて白藤学園の目指す幼児教育について議論を行った。本園では、これまで取り組んできた「あしたがまちどおしくなる幼稚園」は本園の教育の土台としながら、教育理念や教育目標等については 3 園共通のものとし、以下の通り取り組んでいくこととした。

〔教育・保育理念〕 たっぷり遊び じっくり学び ともにたかめあう

〔教育・保育目標〕 かけがえのない子ども時代を、人・もの・こととの関りを通して豊かに生きる

〔目指す子ども像〕 主体的に生き生きと遊ぶ子ども  
ねばり強く取り組む子ども  
自分も友だちも大切にする子ども

### 3. 経営方針等に対する自己評価

	評価項目	評価	取組状況
1	子どもを真ん中においた保育（子どもの主体性を大切にした保育）	A	・ 一昨年度から始めているドキュメンテーションの取組を引き続き実施し、子ども主体の保育の実施に努めた。 ・ 移動動物園の招聘や能登半島地震支援のための募金活動など、子どもが主体的に活動することができた。 ・ 11 月 1 日の公開保育に向け神戸大学の北野幸子教授の指導をいただきながら研修を進め、すべてのクラスが公開保育を行うことができた。 ・ 毎日の終礼の中で、その日の事例に即して子どもの育ちについて振り返りを行っている。
2	白藤学園の強みを生かした園づくり	B	・ 保育学院の観察実習が毎週行われ、学院と協力して進めることができている。 ・ 高校保育コースの生徒とは毎月交流を実施している。 ・ 高校生との SDGs の取組での交流を行った。 ・ 5 月のニコニコ祭り（高校）、1 月のならほフェスタ（学院）に参加し、交流を深めた。

3	健康で働きやすい 職場づくり	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤務時間内に業務を終えることができるよう、退勤時刻の自己管理を押し進めた。</li> <li>職員間の意思の疎通が図れるよう、職員間で話し合う機会を多く設けている。</li> </ul>
4	園児募集に関わって	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>土曜日の「白藤アカデミー」の回数を倍増した。</li> <li>1月から1歳児未就園児クラス「たんぼぼ組」を開設し、3月現在で8名の園児が通園している。</li> <li>白藤学園内に子育て広場「しらふじ ここすきひろば」を開設する。(3月22日プレオープン / 3月27日から本オープン)</li> </ul>
総合評価		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育の質の向上(子どもの主体性を大切にした保育の実践)については11月の公開保育という目標もあり、成果が見られた。</li> <li>また、1歳児未就園児保育の実施や子育て広場の開設など、未就園児に対するアプローチからの園児募集に向けての新たな取組も実施することができた。</li> </ul>

※ 評価(A…十分成果があった / B…成果があった / C…少し成果があった / D…成果があまりなかった)

#### 4. 今後の課題

- ① 子ども主体の保育については園全体として取り組み始めたところであり、次年度以降も引き続き研究主題として研究・研修に努めていきたい。
- ② 本年度から白藤学園の幼児教育が幼稚園、おおみやこども園、おおみや保育園と3園体制となった。保育園や高校との連携だけでなく、3園の連携も深めていく必要がある。
- ③ 職員の働き方改革については引き続き行い、退勤時刻が遅くならないような方策をとる必要がある。
- ④ 少子化の中、園児募集に注力していく必要がある。定員割れが数年続き、来年度は定員の半数となる見込みである。魅力ある幼稚園として保護者に選ばれる園を目指して具体的な取組を行っていく必要がある。

#### 5. その他

- ① 学校関係者評価委員会の評価(第3回学校関係者評価委員会)より
  - ・ 幼稚園の生活の中で多くの経験をさせてもらえ、子どもたちは幸せだなと感じた。特に茶道教室や東大寺大仏殿の見学など、文化を大切にしていると感じた。
  - ・ 幼稚園の活動の中で、子どもたちにワクワク・ドキドキを与えており、それが幼児教育で大切なことだと思った。
  - ・ 高校や保育園だけでなく、いろいろな周りの人とのつながりを利用して保育を展開していると感じた。恵まれた環境にあり、今後の保育も楽しみである。
  - ・ 子どもたちがとても明るい雰囲気活動している。それは、教師が生きて生きているからである。
  - ・ 行事など、子どもたちがみんなで作り上げている感じがした。
  - ・ 行事や園外活動など盛りだくさんでいいが、教師があわただしくなって疲弊しないようにしてほしい。
- ② 保護者アンケートより
  - ・ 「園でのお子様の様子は伝わっていますか」の項目でプラス評価が昨年度より15.4ポイント増加した。年度途中にホームページのリニューアルを行ったことや、日頃から保護者と職員のコミュニケーションを密にしてきた結果ととらえている。
  - ・ 自由記述の中に「とても楽しく、先生も信頼できる方が多くて良い幼稚園なので、この幼稚園に通って良かったなあ」という感想があり、今後も保護者の期待を裏切らないような幼稚園づくりに取り組んでいきたい。